

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立入谷南中学校 校長 遠藤 映悟

1 学校図書館の現状 (今年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 11,146 冊 (蔵書基準冊数 9,600 冊) / 蔵書率 116% (前年度 121.9%)									
	② 新規購入図書 442 冊 / 廃棄図書 322 冊 / 増減冊数 120 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	2.5%	2.9%	10.1%	8.6%	9.1%	4.5%	2.4%	8.9%	7.0%	43.5%
*国基準	6%	2%	18%	9%	15%	6%	5%	9%	4%	26%
利活用の状況	① 開館時間: 毎授業時、毎日昼休みから 17 時 30 分まで (前年度からの変更なし)									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 14.9 冊 (前年度: 15.2 冊)									
	③ 学校図書館利用率 2192.2% (前々年度末: 4779.0%)									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況 (今年度総括)

- 1 学校図書館を活用し、読書に親しむ機会を設けて豊かな心を持つ生徒を育てる。
- 2 学校図書館の資料を活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- 3 学校図書館を活用し、豊かな語彙、正しい言葉遣いを身に付け、自分を表現できる生徒を育てる。
- 4 学校図書館を利用し、得た情報を活用して自らの課題を解決し、すこやかに生きる生徒を育てる。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	① 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。 ② 小学校からの読書習慣をさらに向上させ、読書に親しむ姿勢を育む。 ③ 課題について学校図書館を活用して調べ、解決能力の育成を図る。									
今年度の成果目標					達成基準					
① 学校図書館のきまりや仕組みを理解し利用できる。 ② 昼休みや放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して読書や学習をすることができる。 ③ 図書館の本や新聞等を活用しながら調べ、課題に対して自分の考えをもつことができる。					① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上 (昨年平均 9.7 冊) ② 各教科と連携して図書室を利用した授業を年 5 回実施 ③ 調べる学習コンクール参加					
目標達成状況										
① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上を達成することができた。 ② 各教科と連携して図書室を利用した授業は実施できなかった。 ③ 調べる学習コンクール参加について、第1学年は参加させることができなかった。										

第2学年	① 図書委員会の呼びかけ等で図書館にさらに興味を持ち利用する。 ② 様々な分野の図書に親しむ。 ③ 行事等に向けてインターネットの情報と学校図書の情報を整理していくことで情報活用能力の育成を図る。
今年度の成果目標	達成基準
① 図書委員の「本紹介」や学校図書館の掲示を見て様々な分野の本に興味を持ち主体的に学校図書館を利用することができる。 ② 三種類以上の分野の本を読み、読書カードに記録する。 ③ 課題に応じて図書やインターネットを使い分け、調べたことに対して自分の考えを広げ深めて、表現することができる。	① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 15 冊以上 (昨年平均 17.8 冊) ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加 ③ 各教科と連携し図書室での授業を年 5 回以上実施
目標達成状況	
① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数は達成することができなかった。 ② 今年度は第2学年全員、理科の授業を通じて図書室を利用し、作品を仕上げ出品することができた。 ③ 各教科と連携して図書室を利用した授業を年 5 回以上実施することができた。	

第3学年	① 読書を通して読書が自分の生き方等に及ぼす効用について理解する。 ② 学校図書館での学習活動、調べ学習を通して、言語能力の向上を図るとともに、情報の信頼性の確かめ方を理解する。 ③ 学校図書館を目的に応じて主体的に利用し、視野を広げる。
今年度の成果目標	達成基準
① 主体的に学校図書館を活用して読書や学習をすることができる。 ② 課題に応じて本や新聞、インターネット等を活用し、考えを論理的に表現することができる。 ③ 新聞等で社会について知り、興味をもったことについて図書館で情報収集し、自分の考えを深めて意見交換ができる。	① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 10 冊以上 (昨年平均 2.4 冊) ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加 ③ 各教科と連携し図書室での授業を年 5 回以上実施
目標達成状況	
① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 10 冊以上は達成できなかった。 ② 調べる学習コンクール参加について、第3学年は参加させることができなかった。 ③ 各教科と連携し図書室での授業を年 5 回以上実施することができた。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

<p>【蔵書・配架等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望を取り入れるだけでなく幅広い分野の蔵書を揃え、生徒の興味関心を広く持たせる。 ・「3桁分類」への転換作業を順次進める。 <p>【学校図書館支援員との連携・協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のさまざまな興味・関心に応える書籍を揃え、さらに多くの生徒が利用したいと思える図書館を運営する。 ・生徒が読書に興味・関心を持つために、図書委員を指導しクラスで本紹介を行う。 ・図書委員会で図書館利用の活性化するにはどうしたらよいか検討し実行する。 ・総合的な学習の時間に活用できる蔵書を揃え、情報提供と共に本の貸出を受ける。 ・キャリア教育に応えるため、職業・上級学校・資格取得のための蔵書を揃え、貸出を受ける。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒作品を地域図書館に掲示するなど地域図書館と連携し、読書への興味関心を地域と共に高める。 ・紛失、破損への注意喚起をし、それらが無くなるよう取り組む。 ・中央図書館との「調べ学習用図書」の配送サービスの活用を検討する。
--

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

新型コロナウイルス感染症対策により学校図書館を閉鎖することがあり、貸出冊数が伸び悩むことがあった。だが、図書委員をはじめとした日常の取り組みや、7月に行った校内での選書体験などによって、読書活動の推進に取り組むことができた。その成果として、大幅に貸し出し冊数が伸びた学年もあり、読書に親しむ生徒の数が昨年度よりも増えた。

また、理科の授業を通じて、

一方、読書をしない生徒に対しての対応が課題である。読書に興味・関心のない生徒や、苦手意識がある生徒に対しての、読書の面白さを伝えていく効果的な方法を検討していく必要がある。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

今年度は新型コロナウイルス感染症対策による影響のため、今年度の学校図書館の取り組みに対する評価や要望をヒアリング等により確認することができなかった。

7 今後の展望 —課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて—

読書をしない生徒の興味を引くために、学校図書館を活用した授業やイベントを多く実施し、生徒が学校図書館に関わり読書に親しむ機会をより増やしていく。加えて、学校図書館資料の整理や更新及び図書館内の展示や掲示の充実を図り、生徒がより利用しやすい学校図書館環境を整備する。

また、教職員の学校図書館活用における意識にばらつきがあるため、学校長の指揮の下、職務に応じた役割を明確化し、学校全体に学校図書館基本計画等の学校の方針を浸透させることで、連携・協働しながら学校図書館運営を進める体制を構築していく。

これらの取り組みにより、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能向上を実現し、生徒が主体的に学校図書館を活用して読書・学習し、創造的な活動を行う環境を醸成していきたい。